

【パブリックコメントの結果】

- 募集期間 令和7年12月16日（火）から令和8年1月6日（火）まで
- 募集方法 電子申請、郵送、FAX、窓口へ直接持参
- 意見総数 14名（24件）

※皆様からいただいたご意見については、趣旨を損なわない範囲で要約または一部を抽出しています。

NO	項目	意見内容	区の考え方
1	第1章	<p>SDGs未来都市としての取組姿勢について</p> <p>大田区は「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定されており、持続可能な社会の実現に向けて先導的な役割を果たすことが期待されている自治体であると認識している。</p> <p>その観点から見ると、本計画においても、従来の取組を着実に進めるだけでなく、他自治体に先駆けた取組や、新たなモデルとなり得る施策について、より積極的に打ち出していく余地があるように感じられる。</p> <p>とりわけ、資源循環や地域主体の取組といった分野は、地域特性を生かしながら先進的な実践を展開しやすく、SDGs未来都市としての姿勢や方向性を示しやすい領域であると考えられる。</p> <p>こうした視点を計画の中で明確に位置づけることで、大田区が目指す将来像や、他自治体に対する先導的な役割がより明確になるのではないかと。</p>	<p>本区では、プラスチック分別回収や一部の資源回収事業において、運行管理システムを導入し、他自治体に先駆けた取組を行っております。今後もSDGs未来都市として、新たな施策、事業を積極的に検討してまいります。ご意見を踏まえ、「第1章－2計画の位置付け」に、SDGs未来都市に関する内容を追記しました。</p>
2	基本方針1	<p>循環の位置づけについて</p> <p>第5章「基本方針1（3R+Renewableの推進）」においては、資源循環の重要性が随所で言及されており、循環型社会の実現を目指す姿勢が示されているものと受け止めている。一方で、施策の構成としては、(1)発生抑制、(2)多様な資源回収、(3)食品ロス削減の3点に整理されており、「循環そのものをどう高めていくか」「地域の中で資源がどのように循環していくか」という視点が見えにくくなっている。</p> <p>特に、コンポストや地域資源の循環といった取組は、単なる食品ロス対策にとどまらず、資源循環の質を高める重要な要素であると考えられる。</p> <p>こうした観点から、上記3つに加えて「循環の質の向上」や「地域内循環の創出」といった視点も施策の中に位置づけることで、基本方針の意図がより明確になると思われる。</p> <p>仮に新たな施策項目の追加が難しい場合でも、「食品ロス削減の取組と資源循環の取組を一体的に捉える」といった趣旨の記述を加えることで、循環の視点がより補完されると考える。</p>	<p>区といたしましても、単に資源を循環させるだけでなく、資源の価値を最大限に維持した循環をめざすことが重要であると考えております。いただいたご意見を踏まえ、「第三章基本理念・基本方針 基本方針3」へ循環の質の向上について追記しました。</p>
3	基本方針1－(1)	<p>大田区一般廃棄物処理基本計画（素案）に記載された各事項は、令和17年度までの計画として妥当なものであり賛同する。</p> <p>ただし、記載のない以下の2点について、検討の必要性を提言したい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ごみの有料化 2. 戸別収集の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1. について <ul style="list-style-type: none"> 一人の区民としては有料化してほしくはないが、ゴミの減量推進に向けた東京都の意向から、23区においても近い将来の有料化は避けられないのではないかと。 2. について <ul style="list-style-type: none"> 有料化の場合、有料袋不使用などの不正排出への対策が必要となるが、戸別収集はその対策の主要な一つとして有効である。 既に戸別収集を行っている品川区では、排出量の減少にも効果が出ている。 一方で収集負荷は増大するので、有料化収入の一部を収集に従事する方々の人数や待遇の向上に振り向ける必要がある。（現在の集積所収集は、戸建て各世帯にフルタイム勤務でない世帯構成員がいることを前提としているように思う） 	<p>家庭ごみの有料化や戸別収集については、「第5章 具体的な施策（1）発生抑制に向けた取組の推進」において、発生抑制に効果的な施策の一例として挙げております。</p> <p>これらの施策を実施することは、ごみの減量に対する意識が向上し、発生抑制やリサイクルが促進されるという効果が見込まれますが、一方で区民の皆様の経済的負担が増えることや、不適正排出や不法投棄が増えること、機材や人材確保に課題があることから、周辺自治体の状況も勘案しながら、引き続き調査研究してまいります。</p>

NO	項目	意見内容	区の考え方
4	基本方針1-(1)	<p>●キャチコピー：「SDGsをつくる大田区」</p> <p>●構想：大田区一般廃棄物処理SDGs（素案）達成は、行政だけでは成し得ない大きな課題であり、これには区民各自の手で3R（修理再利用寿命延長ゴミ削減）活動を、大田区民の文化として発芽させ「使う責任」と節約を合わせて実現していく構想を提案する。</p> <p>●具体的方策：集合住宅に「家庭用品のDIY Deskミニ工房」の設置 SDGs推進の為に、区民各自が家庭用品の使い捨てを見直し、“ちょっとした”家庭用品の修理寿命延長・ゴミ削減の為に、シェアリングエコノミーで集合住宅の共用部で誰もが使える様に、「家庭用品のDIY Deskミニ工房」を設置し、日用品の寿命延長修理再利用でゴミ削減と節約の意識と実務を示し、行政だけでは成し得ない課題の3Rを区民が自分の行動で解決する方策である。</p> <p>●背景 昨今首都圏に林立する集合住宅は、狭い為に“家庭用品”の修理再利用寿命延長の為に道具と工房（スペース）が無く、多量の家庭用品は必然的に便利な使い捨て都市ゴミとして焼却しCO2にしている。区民はSDGs達成に、ごみを出さないという役割と責任を認識しているが、集合住宅はそれが出来ない使い捨て習慣と狭い居室の状況がある。</p> <p>物を大切にする文化と歴史 古来日本には物を大切にするとアニミズム思想の付喪神（つくもがみ）もいた。外国では修理再利用寿命延長などのガレージワークや、Thrift Store Donation Center 等節約（thrift）と慈善charity）の要素が合わさったお店の形態がある。また北欧では再利用が子供の授業として行われているとも聞いている。100年先も大田区の主役は人である。幾多の歴史からも戦争や大災害の廃墟の街の復興は、道具を手を持った人の力技であった。物づくりの大田区はSDGsも作る。</p> <p>※注記 「家庭用品のDIY Deskミニ工房」・・・（SDGsスカイパートナー）このアイデアは、「あったらいいな！とても良いアイデア！」と賛成を頂くが、SDGs等は行政の未来社会への取り組みの問題で、区民がこの様な自分に利のない物には個人資金を出さない。 諸外国の様に修理再利用などの文化が、首都圏では途切れているので、これを成功させるには、行政が資金と設置と講習会を指導し積極的に大田区の文化として発芽させる努力が必要と思う。</p>	<p>ものを大切にするという考え方は、ごみ・資源の発生抑制につながるものであると認識しております。 ご提案いただきました内容につきましては、ごみ減量施策事業の検討にあたり、参考とさせていただきます。</p>
5	基本方針1-(2)	<p>基本計画の重点施策にあるように、まず、プラスチック分別回収の強化に力を入れて頂きたい。可燃ごみの収集日に集積所を確認すると、まだまだプラスチック類がたくさんごみ袋に入っているのが現状である。また、リサイクルできる雑紙もかなり混入しているので、この部分も改善の余地がまだあると思う。</p>	<p>令和5年度に実施した家庭ごみ組成分析調査では、可燃ごみには資源化できるプラスチックが15.4%、紙類が14%含まれていることが分かりました。「5章具体的な施策 基本方針1-(2)多様な資源回収のさらなる推進」において、プラスチックの分別回収の強化及び雑紙の回収強化については、重点事業として取り組んでまいります。</p>
6	基本方針1-(2)	<p>資源ゴミを常時回収する場所を増やし、もっと拡大を促進してほしい。カンや瓶、特にダンボールも回収できるようにしてほしい。スーパーも資源を売却して利益を出し、大田区も回収を管理するコストが下がるのではないかと。</p>	<p>店舗におけるペットボトル等の回収は、事業者が自主的に行っているものとなります。いただいたご意見につきましては、今後区が施策を推進する中で参考とさせていただきます。</p>
7	基本方針1-(2)	<p>自主的な資源回収活動への支援について 「(2)多様な資源回収のさらなる推進」における「②自主的な活動への支援」(p30)について、現行の記載は区が資源として位置づけている品目（新聞、アルミ缶等）を対象とした回収活動を想定しているように見受けられる。一方で、生ごみ（食物資源）、剪定枝、落ち葉、土などについても、循環利用の観点から重要な資源であり、今後、地域において多様な取組や新たな仕組みが広がっていく可能性がある分野と考えられる。 こうした資源についても、将来的な循環のあり方を見据え、「自主的な活動への支援」の対象となり得ることを計画の中で示していただくことで、区としての資源循環に対する姿勢や方向性が、より明確になるのではないかと。</p>	<p>現行回収している資源以外についても、資源化可能なものがあるか、また資源化できる施設などについても調査研究してまいります。</p>
8	基本方針1-(2)	<p>他県では、資源ごみをスーパーの敷地内に専用施設を設け、そこへ持ち込むことでポイント還元するというものをしており、積極的な分別意識を住民に持ってもらう良い施策だと感じた。同様の取り組みの導入検討も良いかと思う。</p>	<p>いただいた事例も含め、他自治体の実施状況等について、調査研究してまいります。</p>

NO	項目	意見内容	区の考え方
9	基本方針1-(3)	他の市区町村で実施しているところが多い「生ごみ処理機の補助金」を是非大田区でも実施してほしい。自宅でもゴミを減らしたい。けど減らすことができない。夏の生ゴミの匂い。生ごみ処理機があったらな、と思う場面が沢山ある。 生ごみ処理機は高くして一般家庭に導入するにはかなり躊躇してしまう。補助金制度を検討してほしい。	区では、平成4年度から9年度までは、コンポスト容器の無償貸与、平成10年度から12年度までは、コンポスト容器及び家庭用生ごみ処理機購入費の一部助成を実施しておりました。 平成13年度以降は、区民の皆様のごみ減量意識が向上してきたことや、購入しやすい価格の生ごみ処理機が登場してきたことから、助成金の目的は一定程度達成されたと判断し、助成制度を終了させていただいた経緯があります。 区といたしましては、更なるごみ減量に向けた意識の向上について、今後の国や都などの動向を注視しつつ、食品ロス削減への推進といった観点から力を入れてまいります。
10	基本方針1-(3)	生ゴミの削減について、コンポストの支援をもっとした方がいいと思う。個人や地域でのコンポスト利用や、コンポスト推進団体の支援を通して生ごみは減らせると思う。	コンポストは食品ロスの削減の効果があると同時に、ごみの発生抑制にも大きく寄与するものであるため、本計画の記載箇所を「第5章具体的な施策-(1)発生抑制に向けた取組」へ変更しました。
11	基本方針1-(3)	プラスチック分別回収の開始により、可燃ごみが減る効果があったと思う。次は、可燃ごみの最も多く(27.8%)を占める生ごみの削減である。 重点施策の「食品ロス削減の推進」に、コンポストが記述されたのは、数年にわたりコンポストに取組み、生ごみ排出ゼロを実践している者としては、大変嬉しいことである。ただ、実践している立場からすると、コンポストにより堆肥化するのほぼ全て調理くずであり、直接廃棄や食べ残しなどの食品ロスではない。コンポストはごみの発生抑制に寄与するのが主であり、食品ロス削減の箇所に記述するのは、誤ったメッセージにならないか懸念がある。	コンポストは食品ロスの削減の効果があると同時に、ごみの発生抑制にも大きく寄与するものであるため、本計画の記載箇所を「第5章具体的な施策-(1)発生抑制に向けた取組」へ変更しました。
12	基本方針2-(1)	家庭での分別の手間が増すことは不満が増すことになる。積極的な分別ができる施策を期待する。	引き続き、分別についてご理解ご協力をいただけるよう努めてまいります。
13	基本方針2-(2)	リチウムイオン電池の捨て方について、何をどのように周知されるのか。電池を捨てようと思ひ、色々調査したが結局わからなかった。 正直、大田区はめんどくさいから回収を他に任せて周知だけをするように見える。 3Rなどカッコいいことばかり並べる前にまずはしっかりとごみを回収できる体制を構築してほしい。	リチウムイオン電池をはじめとする小型充電式電池は、メーカーや輸入販売業者に自主回収・リサイクルが義務づけられているため、処分については、まずは、販売店や、小型充電式電池のリサイクルを推進している(一社)JBRCにご相談いただくよう、ホームページや分別案内パンフレット等でご案内しております。 小型充電式電池による火災事故が増加している中、区としましては、電池の適正処理に向けた取組を一層推進する必要があると強く認識しております。
14	基本方針2-(2)	具体的な施策に、リチウムイオン電池の収集・運搬体制の構築、拡充の記述がありますが、火災リスクに対処するためにも、早急に具体的な取組を求めます。	小型充電式電池による火災事故が増加している中、区としましては、電池の適正処理に向けた取組を一層推進する必要があると強く認識しております。 「5章具体的な施策 基本方針2-(2)安定的な収集・運搬体制の構築」において、重点事業として取り組んでまいります。
15	基本方針2-(2)	リチウムイオン電池を含む製品(モバイルバッテリー、USB扇風機、空調服等)は、ここ数年で急速に普及した。これらの製品の寿命は概ね3~5年であり、今後数年間で廃棄が集中することが予想される。現状、区内の回収拠点は限られており、正しい廃棄方法を知らない区民が可燃ごみや不燃ごみに混入させるケースが増加すると考えられる。 素案にある「二次電池の適正な収集・運搬、処理」の取り組みを廃棄ピークが到来する前に前倒しで強化していただきたく、以下を要望する。 1.回収拠点の大幅な増設(区施設に加え、コンビニエンスストアや駅等との連携による常設回収ボックスの設置) 2.膨張・発熱が始まった電池の安全な持ち込み方法の明確化と周知 3.リチウムイオン電池の火災リスクについて、具体的な事故事例を示した積極的な広報の実施	小型充電式電池による火災事故が増加している中、区としましては、電池の適正処理に向けた取組を一層推進する必要があると強く認識しております。 今後、小型充電式電池の回収につきましては、安全性や区民の皆様のごみ減量意識を考慮しながら、その周知も含めた効果的な手法を検討してまいります。 ご提案いただいた、具体性のある効果的な広報については重要な視点であると考えておりますので、引き続き検討を進めてまいります。
16	基本方針2-(2)	ゴミの回収は朝でないといけないのか?夜9時以降~深夜にかけての回収の方がカラス被害も少ない可能性はないか? 交通事情も朝の通勤ラッシュ帯は避けられる。出す側もその時間帯の方が忙しい朝より楽なのではないかと感じている。 また、特に夏場は作業していただく方々の負担軽減にも繋がると思うがいかがか。ご検討いただきたい。	夜間の収集に変更した場合、カラス等によるごみ散乱の減少や街の美観向上等、一定の効果があると見込まれます。 一方で、収集車両走行時や収集作業時の騒音問題、不法投棄や資源持ち去りの増加、集積所への放火リスク、収集作業員の安全確保、ごみ収集に係る経費の増加等、多くの課題もことから、現時点では、ごみ収集時間の変更は困難であると考えております。 ごみの収集時間変更につきましては、地域の皆様のお声や様々な状況を考慮しながら研究を重ねてまいります。

NO	項目	意見内容	区の考え方
17	基本方針 2 - (2)	ごみ回収車をEV化や水素燃料置換化することで環境対策に貢献できると思う。	区が委託により実施している資源回収においては、一部EV車を導入しております。引き続き、環境負荷の低減に向けた清掃事業における取組について、他自治体の動向等を注視してまいります。
18	基本方針 2 - (2)	大田清掃工場向けパッカー車の増加により周辺道路が渋滞しているため、その低減を考慮願いたい。	効率的な収集ルートを作成や適切な収集・回収量の算定等により、大田清掃工場に搬入する区収集ごみの車両台数は、逡減しております。引き続き、車両台数の精査に努めてまいります。
19	基本方針 3	<p>協働の位置づけについて</p> <p>第5章「3 協働の推進」では、区による情報発信や啓発、既存の協議会の運営、区による率先行動などが示されており、区が主体的に取組を進めていく姿勢は理解できる。</p> <p>一方で、記載内容のほとんどが「区から区民へ」の一方向的な関係として読めるため、区民・団体・事業者が企画段階から関わり、ともに考え、実践していくといった意味での「協働」の姿が見えにくい印象を受ける。</p> <p>協働を掲げるのであれば、単なる周知や参加の呼びかけにとどまらず、区民や地域団体が主体的に関与できる仕組みや、役割分担、意見が施策に反映されるプロセスなどについても言及があると、より実態に即した内容になるのではないかと考える。</p> <p>例えば、取組の企画段階からの参画や、実践事例の共有・育成などを位置づけることで、協働の実効性が高まると考える。</p>	ごみ減量や適正排出等を行っていただく主体は、区民・団体・事業者等の皆様であるため、施策を推進するうえでは、区がこれらの方々と協働を進めていくことが重要です。いただいたご意見を踏まえ、「ともに考え、実践していく」という趣旨の記載を追加しました。
20	基本方針 3 - (1)	小中高生などへの出前講座など、環境教育を進めていただきたい。	環境教育や環境学習について、小学校環境教育副読本や動画などの作成、出前講座の開催などにより引き続き推進してまいります。
21	共通施策 (1)	大田区に在住する外国人は現在大田区の人口の約4%弱と聞いている。今後も外国人はもっと増加すると予想される。言葉の問題等あり大変だとは思いますが、在住する外国人がごみの分別・出し方が理解できるようわかりやすく発信していただきたい。	区内在住外国人は人口・国籍ともに増加・多国籍化傾向にあり、それぞれの言語や文化に応じた適切な情報提供が急務となっています。また、適切なごみ分別方法やごみ減量施策の周知を促進することで、更なるリサイクル率向上や環境負荷軽減が期待できます。共通施策(1)普及啓発において、「多言語対応を含めた外国人向けの広報強化」については、重点事業として取り組んでまいります。
22	共通施策 (1)	基本計画概要版から取り組みの成果を確認した。ただ毎回の収集日の様子を見てみると、まだまだと感じることが多くある。地域ごとの数字などがわかると町会などの取り組み意欲につながるかと。区報などで毎回わかりやすいイラストなどで重点政策の削減の項などを知らせていただきたい。	区民や事業者等の皆様に意識改革と行動変容をしていただくためには、必要な情報が正確に伝わるのが重要です。第5章「4. 共通施策(1)普及啓発」において、「データの見える化による行動変容の推進」を重点事業としており普及啓発の取組を強化してまいります。
23	共通施策 (1)	ごみ分別アプリは、ごみ出しのアラート機能など大変便利であり、前期計画の大きな成果と言えます。ただし、昨年末の収集のない期間に誤ってアラートがあったように、便利ゆえのミスも起こり得るので、細心の注意を払って運用してほしい。	皆様にご迷惑をおかけしてしまいましたこと、深くお詫び申し上げます。ごみ分別アプリにつきましては、区民の皆様の利便性を更に向上させるため、機能や運用面について検証してまいります。
24	共通施策 (2)	有料ごみ処理券のDX化(シールの撤廃、もしくは縮小)ができるとう嬉しい。	有料ごみ処理券のDX化については、先行する他自治体の事例を含めて調査研究してまいります。